

第6学年 音楽科学習指導案

平成29年11月21日(火) 5時間目

場所 音楽室

指導者 T1

T2

1 題材名 日本と世界の音楽に親しもう

2 題材の目標

- 日本に古くから伝わる音楽や世界の音楽に関心を持ち、音楽の特徴や演奏のよさを理解し、楽しんで聴いたり、文化の違いに関心をもったりする。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律、音色、リズム、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出す音楽のよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 【音楽表現の創意工夫】
- 日本に古くから伝わる旋律やリズムに合う歌い方をするために必要な呼吸や発音の仕方などの技能を身に付けて演奏する。 【音楽表現の技能】
- それぞれの国の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を感じ取りながら聴く。 【鑑賞の能力】

3 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の内容「A 表現」(1) 歌唱イ・ウ及び「B 鑑賞」に基づいて構成している。

本題材では、我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりしながら、それぞれの音楽に親しむことをねらいとしている。

「越天楽」(雅楽)、「越天楽今様」では、独特な日本音階や和楽器の音色、ゆったりとした速度等から、我が国の音楽の特徴を感じ取ることができる。また、2曲が同じ旋律であることなどから、「越天楽」(雅楽)で感じ取った旋律やリズムを「越天楽今様」の歌唱表現の中で生かしながら学習を進めることができる。

「世界の国々の音楽」では、様々な国の音楽を聴いたり楽器の様子を知ったりすることで、それぞれの国独特の文化があり、我が国とは違う音楽文化があることに気付くことができる。また、楽器の音色やリズムなどを比べながら聴くことによって、音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を感じ取る力を身に付けることができる考える。

また、興味をもった国の音楽を自分で更に調べる活動を通して、世界の国々の音楽への理解を深めることができる題材である。調べた国の音楽をお互いに伝え、感じたことを伝え合う活動を通して、音楽が人々の心の支えになってきたことに気付くことができると共に、他国の文化を尊重する態度も養うことができる題材だと考える。

(2) 児童について

省略

(3) 指導について

第一次では、まず、雅楽「越天楽」の鑑賞を行う。これまで聴き親しんできたオーケストラなどの響きとの違いを感じ取らせることで、日本の伝統的な音階やゆったりとした曲想などを感じ、日本古来の音楽の雰囲気味わうようにしたい。また、音色に注目させ、楽器の種類を考えたりどの国の音楽かを考えたりしながら聴くことで、曲に対して関心をもちながら繰り返し聴くことができる。

その後、「越天楽今様」の歌唱を行う。前時の鑑賞の際に繰り返し曲を聴くことで旋律を覚えることができ、雅楽「越天楽」と「越天楽今様」に同じ旋律が含まれていることに気付きやすくなると考える。それによって鑑賞の学習を歌唱表現に生かすことができるようにしたい。また、言葉のまとまりや呼吸、発音の仕方などを工夫しながら歌うことで、日本に古くから伝わるリズムや旋律の動きなどを感じ取り、我が国の伝統音楽を味わうようにしたい。

第二次では、楽器による世界の国々の音楽を鑑賞する。楽器の写真を活用したり繰り返し演奏を聴いたりすることで、普段なかなか見たり聴いたりすることのできない世界の音楽への関心を高めたい。また、和楽器との相違点を考えることで、楽器の音色に気付いたり、それぞれのよさを感じたりすることができると思われる。

その後、興味をもった国の音楽についてグループで調べる活動を行う。各国の音楽を特徴づけている楽器、また、その音楽を生み出した背景（宗教、歴史など）等、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる情報の資料を前もって学校司書が収集し、児童が知りたい国の情報を手に入れることができるようにしておく。図書資料等から情報収集を行った後、グループで情報の取捨選択を行い、紙のパワーポイントにまとめる。その際、紙の大きさを児童の実態に合わせて、必要な部分だけ書いたりするようにし、まとめる活動が負担にならないようにする。最後にグループごとにプレゼンテーションを行う場を設けることで、世界の国々の音楽に対する理解を更に深めるようにしたい。

本時では、グループごとに調べた国の音楽についてプレゼンテーションを行う。どのような場面で音楽が使われているのか、音楽と関わりの深いものは何かなど音楽の特徴が伝わるように、絵や写真、言葉、音楽などを効果的に使ってプレゼンテーションを工夫したり、気付いたことを伝え合ったりすることで、どの国の音楽も地域独自の文化を背景として受け継がれていることに気付くようにしたい。また、音楽のもつ力や役割の大きさにも気付くとともに、他国の文化を尊重する態度も養うようにしたい。

4 指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

(A) 表現：歌唱	
	ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。
○	イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
○	ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。
	エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
(A) 表現：器楽	
	ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。
	イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
	ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
	エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
(A) 表現：音楽づくり	
	ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
	イ 音を音楽にする家庭を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。
(B) 鑑賞	
○	ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
	イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
○	ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

(2) 本題材で指導する内容：〔共通事項〕

ア	(ア)	音色	雅楽の楽器の音色、諸外国の楽器の音色や音楽の雰囲気
		リズム	ゆったりとしたリズム、日本に古くから伝わるリズム それぞれの国の音楽のリズム
		速度	ゆったりとした速度
		旋律	同じ旋律、旋律の動き
		強弱	
		音の重なり	
		音階	日本音楽の音階
		調	
		拍の流れ	ゆったりとした拍の流れ
		フレーズ	
		和声の響き	
	(イ)	反復	旋律の反復
		問いと答え	
		変化	リズム、速度の変化
音楽の縦と横の関係			

5 教材

「越天楽今様」(慈鎮和尚 作歌 / 日本古謡)

「雅楽 越天楽」(日本古謡)

「楽器による世界の国々の音楽」(バグパイプ【イギリス】 / メヘテルハーネ【トルコ】 / アルファー【中国】
フォルクローレ【ペルー・ポリビア】 / ガムラン【インドネシア】)

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の 創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱	○	○	○	
A・器楽				
A・音楽づくり				
B・鑑賞	○			○

(2) 題材の評価規準と単位時間における具体的な評価規準

	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
題材の 評価 規準	<p>①日本に古くから伝わる音楽に関心をもち、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴く学習に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②世界の国々の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴を理解して聴いたり調べたりする学習に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>③楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。</p>	<p>①旋律、楽器の音色、リズム、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもって呼吸や発音の仕方、速度などを工夫している。</p>	<p>①言葉のまとまりや語感、呼吸や発音の仕方に気をつけて、日本に古くから伝わるリズムや旋律に合う自然で無理のない歌い方で歌っている。</p>	<p>①雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴を聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴いている。</p> <p>②楽器の音色、旋律、リズム、速度などの特徴やそれらの働きが生み出す音楽の雰囲気の違いから想像したことを言葉で表すなどして、世界の国々の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を理解して聴いている。</p>

7 指導と評価計画（全8時間）

次	時	ねらい	○学習内容・学習活動	評価	評価方法
第一 次	1	日本に古くから伝わる音楽に関心をもち、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴いたり調べたりする学習に、主体的に取り組もうとしている。 雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴を聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴くことができるようにする。	○雅楽「越天楽」を聴き、楽器の響きや曲想を感じ取る。 ・雅楽の楽器の音色や速度、リズム、旋律の反復などを感じ取って聴く。 ・気付いたことや感じたことを話し合い、雅楽についての理解を深める。 ・演奏形態や楽器について確かめる。 ・雅楽の響きを味わって聴く。	ア① エ①	発言の内容 ワークシート
	2	言葉のまとまりや語感、呼吸や発音の仕方に気をつけて、日本に古くから伝わるリズムや旋律に合う自然で無理のない歌い方で歌うことができるようにする。	○「越天楽今様」の歌詞の内容を理解し、発音や発声に気を付けて歌う。 ・「越天楽」と同じ旋律であることに気付く。 ・歌詞の意味を理解し、範唱に合わせて歌う。 ・楽曲分析をする。 ・情景を思い浮かべて、発音や発声に気をつけて歌う。	ウ①	歌唱 ワークシート
	3	旋律、楽器の音色、リズム、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもって呼吸や発音の仕方、速度などを工夫することができるようにする。	○日本に古くから伝わるリズムや旋律の動きを生かした歌い方を工夫して歌う。 ・言葉のまとまりや語感、リズムや旋律の動きに合う歌い方を工夫する。 ・日本に古くから伝わるリズムや旋律の動きを生かして、工夫した歌い方でのびのびと歌う。	イ①	歌唱 発言の内容 ワークシート
	4	世界の国々の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴を理解して聴く学習に、主体的に取り組もうとしている。 楽器の音色、旋律、リズム、速度などの特徴やそれらの働きが生み出す音楽の雰囲気の違いから想像したことを言葉	○それぞれの国の音楽の特徴や演奏のよさを感じ取って聴く。 ・音楽の音色の特徴や雰囲気の違いなどに気を付けて、繰り返し世界の音楽を聴く。 ・それぞれの国の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気について、聴き取ったり感じ取ったりしたことを話し合う。	ア② エ②	発言の内容 ワークシート

		で表すなどして、世界の国々の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を理解し、味わって聴くことができるようにする。			
	5	世界の国々の音楽に関心を持ち、それぞれの音楽の特徴を理解して、聴いたり調べたりする学習に主体的に取り組もうとしている。	○関心のある世界の国々の音楽について調べる。 ・世界の国々の音楽を聴き、興味をもった国ごとにグループをつくる。 ・選んだ国の音楽について図書資料を活用して調べ、情報カードに書く。	ア②	行動観察 情報カード
第二次	6・7	世界の国々の音楽に関心を持ち、それぞれの音楽の特徴を理解して、聴いたり調べたりする学習に主体的に取り組もうとしている。 楽器の音色、旋律、リズム、速度などの特徴やそれらの働きが生み出す音楽の雰囲気の違いから想像したことを言葉で表すなどして、世界の国々の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を理解して聴くことができるようにする。	○グループで選んだ国の音楽についてまとめる。 ・選んだ国の音楽について、調べた情報を整理する。 ・整理した情報を紙のパワーポイントにまとめる。	ア② エ②	発言の内容 紙のパワーポイント
	8(本時)	楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。	○それぞれの国の音楽を紹介し合い、音楽の特徴を感じ取る。 ・グループごとに調べた国の音楽について紹介する。 ・それぞれの国の音楽の特徴や音楽を生み出した背景などについて、聴き取ったり感じ取ったりしたことを伝え合う。 ・それぞれの国の人々が大切に伝えている音楽のよさを感じ取る。	ア③	発言の内容 ワークシート 行動観察

8 本時の学習（本時8／8）

(1) ねらい

楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。

(2) 本時の展開

時	学習活動	教師の支援		評価規準と方法
		T1	T2	
5	1. 前時までの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した世界のいろいろな国の音楽を振り返り、学習への意欲を高める。 		
5	2. めあての確認をする。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">世界の国々の音楽を聴き、他の国の文化を知ろう</div>				
30	3. グループごとに調べた国の音楽についてプレゼンテーションをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙のパワーポイントを使いながら、プレゼンテーションをする。 ・それぞれの国の音楽の特徴や音楽を生み出した背景などについて、感じ取ったり聴き取ったりしたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、紙のパワーポイントが全児童に見えるようにする。 ・話し合いの際に、同じように感じ取ったり、違うように感じ取ったりしたことを明らかにし、再度音楽を聴いて確認できるようにする。 ・各グループが調べた楽器の素材や演奏する場などの相違点を比べることによって、音楽が地域独自の文化を背景として生まれていることに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた際に活用した図書資料を準備し、必要に応じて提示する。 ・児童の傍で、内容や思いを確認する。 	
5	4. 本時の学習の振り返りをする。			

楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。

(3) 予想される児童の具体的な姿

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。	楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について進んで伝え合い、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。	楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none">・言葉などで伝えることができない。 →傍で一緒に音楽を聴き、音色などの観点を示しながら気付きや思いを聞いていく。 言葉以外の表現方法を提示し、表現しやすいものでできるようにする。・音楽や調べた内容と結びつけながら他国の文化を感じ取ることができない。 →プレゼンテーションの内容や音色などを確認し、1つ1つその国の背景などと結びつけながら理解できるようにしていく。

(4) 研究の視点

図書資料を活用して音楽の背景や楽器について調べたり伝えたりしたことは、他国の音楽の文化をより深く理解する上で有効な手立てであったか。